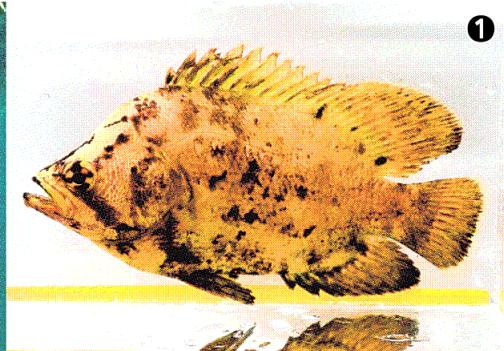
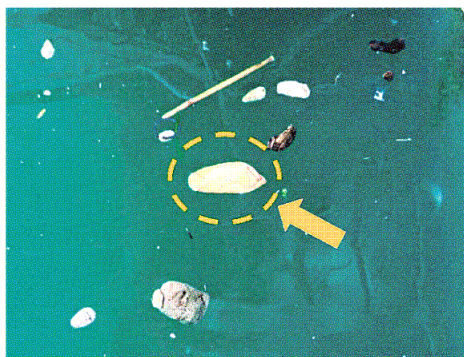
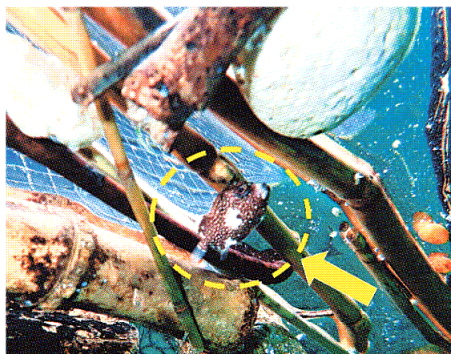




①



②



③



④



かこしま水族館のイルカ水路は鹿児島湾の一部を利用して、流木や落ち葉、流れ藻（海面を漂う海藻）、軽石といった自然由来の漂流物がたくさん流れてきます。

これらの周りにはさまざまな魚たちが暮らし、幼魚が成長する場にもなっています。漂流物は隠れ家になり、餌となる小さな生き物も集まります。海流に乗ることで、分布域を広げられます。

漂流物近くで暮らす幼魚の中には、周りのものに姿がよく似た種もいます。マツダイは落ち葉、アミモンガラは軽石や木のかけら、ソウシハギは流れ藻などに紛れて泳いで

幼魚たちの擬態 漂流物に姿似せる

います。それぞれ見た目だけではなく、横向きになって海面を漂うように泳ぐ動きもそっくりで、私は何度かだまされました。

このように動物が他のものに姿や様子を似せることを「擬態」といいます。捕食者から身を隠し、餌となる他の生き物を狙う際に気付かれないようにするのに役立ちます。擬態する幼魚たちにとっては、自然由来の漂流物は欠かせない存在なのです。

イルカ水路の掃除をしている時、ペットボトルやビニール片、発泡スチロールといった人の生活に由来するごみがあり、心が痛みます。そんな中で自然由来の漂流物に擬態する魚を見つけると、明るい気持ちになれます。

みなさんも海に行ったら、足元を注意深く見てみてください。漂流物と暮らす魚たちの世界が広がっているかもしれません。

（海獣展示係飼育員・中村潤平）

①マツダイの幼魚はまるで落ち葉のように見えます②軽石や木の枝と海面付近を漂うアミモンガラ③ソウシハギは海藻などに擬態します④イルカ水路に流れ込んだ漂流物。自然由来のものほか、人工物のごみも入ってきます